

令和5年度 第1回熊本市小中一貫教育懇談会（概要版）

「熊本市の小中一貫教育の取組について」令和5年7月24日（月）14:00～15:30

座長より 小中一貫教育懇談会の目的について

①小中一貫教育懇談会の目的

熊本市における小中一貫教育及び幼小中連携教育のあり方、推進方法等について意見交換し、特色ある教育の推進を図るとともに、その成果を活用することにより熊本市全体の教育の質の向上を図る。

②連携を充実させるための2つの方法

◇連携して取り組む対象づくり（小中一貫教育目標、小中一貫カリキュラム等）

◇連携者同士の関係性づくり（小中学校の教員同士と子ども同士が交流する）

③小中一貫教育懇談会の今年度の目標

子どもがもっとわくわくする学校にするために
小中一貫教育の視点でできることって何だろう？

④小中一貫教育懇談会の今年度の計画

第1回：様々な意見交換

第2回：実現可能性に関する対話

第3回：成果と課題のまとめ

事務局説明 本市の小中一貫教育の取組について

① 小中連携教育と小中一貫教育について

「小中連携教育」とは、小・中学校が交流等を行い、小学校から中学校への円滑な接続を目指す様々な教育のこと。

「小中一貫教育」とは、小中連携教育の中に含まれ、小中学校の教員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた系統的な取組を目指す教育のこと。

②幼小中連携教育と小中一貫教育の目的

中学校区の課題を解決する

小学生の中学校進学に対する不安感を軽減

義務教育9年間で児童生徒を育てる意識の醸成

児童生徒の不登校やいじめの解消など

③幼小中連携教育と小中一貫教育のメリット

- (1) いわゆる「中1ギャップ」の緩和・小学生の中学校進学に対する不安感の軽減
- (2) 教育課程の編成・実施による指導の一貫性の確保
- (3) 小中学校間の教職員の意識改革
- (4) 学力向上・学習意欲の向上
- (5) 良好な人間関係の構築・不登校児童生徒の減少
- (6) 小規模校の弊害の解消 など

④今後の小中一貫校への移行について

◇今年度のモデル校（花陵・城西・飽田・力合・日吉中学校区）は1年間の取組後、小中一貫校に移行予定。

◇三和・武蔵・長嶺・龍田中学校区は今後、モデル校として1年間取り組んだ後、小中一貫校に移行予定。

意見交換（各学校の取組等）について ～ まとめ ～

○天明校区は義務教育学校になることで、先生方の小中一貫教育に対する意識が高い。義務教育学校のメリットは先生方が義務教育の入口と出口の子どもを間近に見ることで先生方の意識がそろっていくことにある。

○小中一貫校について、地域の理解が十分でない。今後も説明をしていく必要がある。地域の方は小中学校の先生や児童生徒が交流することを望んでいる。交流すると異学年が一気に仲良くなる。

○芳野中学校区では夏休み前に中学1・2年生が小学3・4年生に算数を教えている。また、以前から小中合同運動会を行っている。子どもと教職員の生き生きとした姿を見ることができている。

○江原中学校区では人権学習カリキュラムマネジメントを基盤とした小中一貫教育を目指している。校長が異動になっても、子どもたちのための取組を学校に残していくことが大切である。

○4・5・6年生で交換授業を行い、中学校との接続がスムーズになるように取り組んでいる。

○水防訓練での引き渡し訓練を小中学校合同で行った。また、プール再編モデル事業では吉松小と田底小の同じ学年で授業を行い、小小の交流を深めている。

○地域性をどう生かしていくのかを考え、小中一貫教育の内容を見直した。総合的な学習の時間を核として地域の協力を得ながら取組を進め、子どもたちの交流や合同での研修会を行った。